

事例16:紋付き袴と着物で特別な新年会に！1年に1度の煌びやかなイベント

発表テーマ:利用者ニーズ／イメージアップ

事業所名:大地の家

担当者:生活支援員 谷口 悠太、生活支援員 古川 裕明

施設・事業所紹介

大地の家は、主に知的に障害のある方が生活する入所施設です(定員 40 名)。日中は生活介護事業所として運営し、地域にお住まいの障害者に対するサービスも提供しています。
また、短期入所事業(定員 6 名)も実施しています。

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

集団生活となる入所施設の利用者の方は、コロナ感染対策のため特に制限の多い状況下での生活が続いていました。この間、社会参加の機会が著しく制限された利用者の方に対し「少しでも季節感を感じていただきたい、今年こそは皆で楽しく明るい年になるように新年を祝いたい」という思いから企画しました。

新年会というイベントを通して、利用者の方に非日常の体験を提供し特別な思い出となる時間を過ごして頂くという取り組みを行いました。

2 具体的な取組内容

職員の知り合いで写真館を営む方から「使わなくなった着物一式ありませんか」というお声をいただいたことから非日常体験と特別な思い出の企画がスタートしました。

重度の知的障害ある方など「着物、袴」と言葉での伝達理解が難しい利用者の方に対しては、実物を見て、着ていただく事でそのイメージを持っていただきました。

お殿様・お姫様とはいかないまでも、満足気に今年の抱負を述べられるなど普段の生活では体験できない和装での新年会イベントは、当事者は勿論、周囲のスタッフにとっても特別な思い出となりました。

当日はなんとか着付けもできて、記念撮影もばっちり！



3 成果と評価

利用者の方に普段とは違った体験を提供したい、皆が笑顔になる企画をしたいという事でスタートしましたが、ベテランスタッフと若手スタッフが着付けやお化粧を担当し、始まる前からムードも高まり世代間の交流を図る機会にもつながりました。

また、利用者の方も最初は緊張した様子も見られましたが「素敵。かわいい」という周囲の声掛けからとても良い笑顔が見られるようになりました。

感染対策は行いつつも、数年ぶりの大勢での新年会、カラオケ大会等大いに盛り上がり、素敵な新年会になりました。後日家族様ともその時の様子を共有することが出来ました。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

施設に入所されている利用者の方の暮らしは、時として一般社会の暮らしとは異なることもあります。今回はコロナ禍でもあり施設内でのイベントにスポットをあてた取り組みとなりましたが、今後は地域社会の中で利用者の方が活躍できる、笑顔になれる企画も検討したい。

事例17:「言わない自由がある」メンバーさんの一言から始まった個人の尊厳に対して私たちが決断した支援のステップ

発表テーマ:利用者生き生き支援

事業所名:LITALICO ワークス明石

担当者:栢 菜穂、小栢 麻衣、清水 麻衣子

施設・事業所紹介

サービス内容: 就労移行支援サービス・就労定着支援サービス
利用者人数 : 43 名程度 (両サービス含)

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

あらゆる困り感があったある利用者(以下 A さん)。しかし本人は「不都合な事には目をそらしたい、答えたくない」というお気持ちがあり、なかなか支援者に困り感や抱えている問題の開示をしてくれませんでした。

そんな中、困り感のヒアリングを行おうとした際に「言わない自由がある」との発言がありました。支援者たちは本人の気持ちを尊重し無理に聞き出すことやめ、その一方でどのように支援を行ったら良いのかが課題となりました。A さんの思いをくみ取ったうえで支援者の想いを実現させる取り組みが必要になりました。

2 具体的な取組内容

①信頼関係の構築

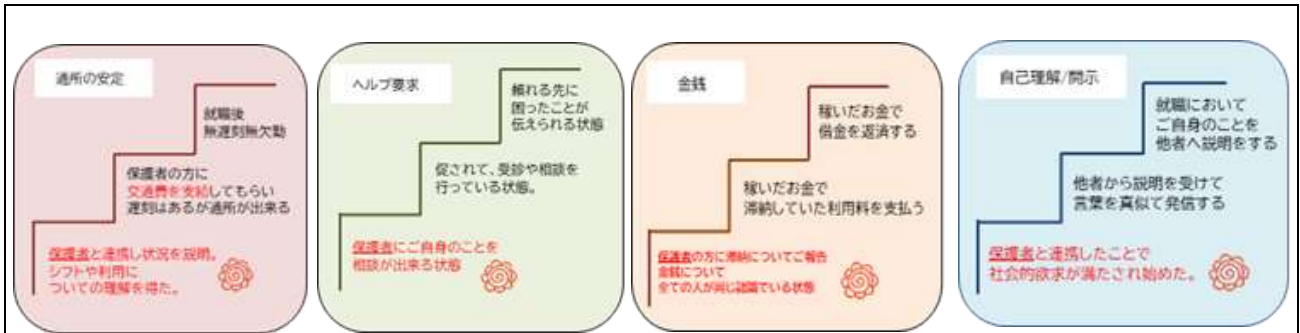
訓練時での関わり方について、遅刻欠席があったときは通所された努力や連絡された気持ちを受け止めました。また、指示理解が難しい際には、紙に説明を書くことで可視化し、何度も一緒に復唱をすることで理解できるまでサポートするなどコミュニケーションの時間を増やし、出来ることへの支持や自己肯定感を高めることを意識して関わりました。

②家族連携

家族に本人の特性を説明。通所への理解を得るために本人の困り感を踏まえて就労支援の必要性を伝えることで理解を得て、交通費を支給して貰えることになりました。また、リタリコから就職活動について協力を求め、家族も求人と一緒に検索をしてくれるようになりました。

③成功体験を積むためのスモールステップ検討・作成

【通所の安定】【ヘルプの要求】【金銭】【自己理解/開示】の 4 項目の課題を設定。各課題をいきなり全て解消するのではなく、まずどのような内容を解決すれば、本人が自立して課題の解消へ向かうことができるのかの検討を行いました。



④地域連携

本人の希望ではありませんが、将来的に何かあったときに「ご自身から」向き合いたい、必要だと思ったタイミングで頼れる相談先を地域に作りました。

相談先: 明石社会福祉協議会、明石市福祉局生活支援室障害福祉課、司法書士、明石土山病院、相談支援事業所、明石市障害者就労・生活支援センターあくと

3 成果と評価

■支援者

支援において実践してきた内容は今までと変えなくても、本人の『守って欲しい尊厳・状態』に合わせて『何をどのタイミングでどのように支援するか』を見定め、カスタマイズするスキルを身に付けることが出来ました。

■利用者

通所での成功体験をお守りに無遅刻・無欠席、そして仕事を行う意識を持てました。また、自己理解に励み、企業に自己開示をすることができるようになりました。

■保護者

娘の部屋に行って体調等のヒアリングや気にかけてくれるようになりました。

■職場

受診について促してくれるような関係性を築けています。一般就労ですが本人への理解があり月に1回企業へ訪問し定着面談を行っています。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

課題としては、今後、本人が定着支援事業にかわった際にさらにフォローアップを行う必要があることが挙げられます。

担当制で行ってきた当事業所ですが、今回のように支援者の方向性に悩むようなケースの場合、「センター全員で見守る・支援する」という支援に切り替えました。その結果、情報共有がしやすくなり風通しの良い事業所になりました。支援者一人で抱え込まないようにすることがより良い支援になる場合もある事が分かりました。